

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成30年4月)

～現状判断は横ばいで推移～

- 景気ウォッチャー調査・4月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]は横ばいで水位した一方、先行き判断は2か月ぶりの低下となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、気温が平年を上回る推移となったことがプラスに作用したほか、インバウンド市場の好調な動きを指摘する声が多く聞かれた。また、3月下旬を底に株価も回復傾向をたどったことで、高額消費が堅調に推移したほか、心理面にもプラスの影響があったとみられる。
- 一方、先行きについては、引き続きインバウンド市場の好調な動きが期待されているほか、今夏は猛暑になるとの予報から、夏物商材の販売増を期待する声も聞かれる。
- 北朝鮮をはじめとする地政学リスクについては、一時に比べると緊張が和らいだとし、先行きを楽観視する声も聞かれるものの、国内政治の混乱や米中間の貿易問題などもあいまって、依然として不透明感は強いといった声はまだ残っている。

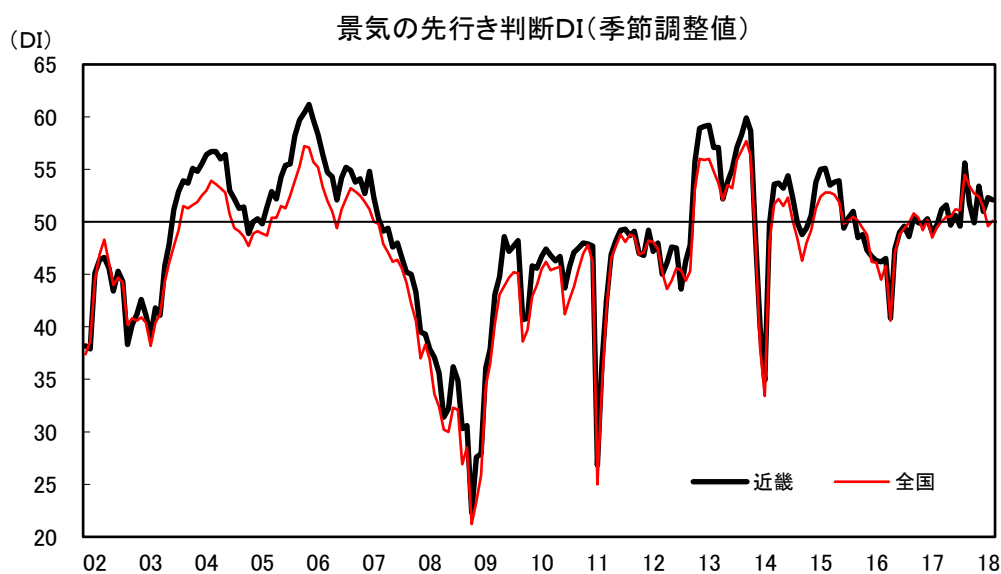
「気温」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(マネージャー)	・天候が安定し、気温も高かったため、入店客数が前年比で6%増、売上も7%増と好調である。外国人旅行者による免税売上が前年の倍以上となり、特に化粧品や特選ブランド品が大幅に増えた。免税売上を除いても、売上は5%以上のプラスと、春物衣料や洋品雑貨、輸入時計などがけん引している。
	変わらない	一般小売店[衣服](経営者)	・気温の影響か、売上は前年比で102%と微増であるが、全店でアップしている。仮に月後半が雨であれば、前年並みに終わっているところである。
		百貨店(商品担当)	・気温の変動が大きいなど、季節の変化が不順であるため、衣料品の売行きが少し厳しい。化粧品や子供服は依然としてインバウンドに支えられ、順調に推移している。
	やや悪くなっている	一般小売店[衣服](経営者)	・気温が少し上がり、夏物衣料を意識し始める消費者はいるものの、まだ購買するには早いため、結局は春物と夏物のどちらにも手が伸びず、販売量が減っている。
		百貨店(販促担当)	・3月は衣料品や雑貨が好調に動き、特に良かった商品は少ないながらも、全体的に前年を上回ったが、4月に入って衣料品が苦戦している。雑貨や高額品の好調が全体をカバーしているものの、数か月前の傾向に戻っている。食品についても、高い気温が続かなかで良い提案ができず、前年を上回る来客数を活かしきれていない。
		スーパー(店長)	・4月は気温の上昇も早く、衣料品を中心に季節品の動きは良いが、食品関係の競合店がオープンした影響は大きい。食品は来客数と販売点数の減少傾向が続き、厳しい状況にある。
企業関連	なっている	家電量販店(人事担当)	・既存店の来客数が前年よりも減少している。気温が前年に比べて低めであることが影響している。
		食料品製造業(営業担当)	・4月中旬までは前年並みであったが、下旬から気温の上昇に伴い、飲料水の販売が伸びている。
		その他サービス業[店舗開発](従業員)	・今月は初旬から中旬にかけて天候が良く、暖かかったため、花見を始めとする多くの観光客で、関西の各行楽地が大にぎわいとなっている。

「インバウンド」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店 (マネージャー)	・天候が安定し、気温も高かったため、入店客数が前年比で6%増、売上も7%増と好調である。外国人旅行者による免税売上が前年の倍以上となり、特に化粧品や特選ブランド品が大幅に増えた。免税売上を除いても、売上は5%以上のプラスと、春物衣料や洋品雑貨、輸入時計などがけん引している。
		百貨店 (企画担当)	・今月の免税売上は過去最高となる見通しである。化粧品の増加が続いているほか、今月は特選ブランドや子供服、アクセサリーも売上を大きく伸ばしている。国内客では、株価上昇の影響もあり、富裕層や外商客の売上も増加傾向となっている。ボリューム層に関してはほぼ前年並みといった基調であるが、全体としては増収の傾向となっている。
	やや良くなっている	百貨店 (サービス担当)	・今月もインバウンド効果は変わらず、前年比で約1.2倍の来客数となっている。特に、化粧品の売上は好調で、前年の水準を大幅に上回っており、今後も目標を上回る見込みである。
		百貨店 (外商担当)	・インバウンド売上が前年を大きく上回っている。富裕層を中心とした外商売上も高額品が売れ、前年を大きく上回っている。
		コンビニ (経営者)	・インバウンドの客が少し減少していたが、最近では増えている。特に、たばこの購入が増えている。
		コンビニ (店員)	・外国からの観光客が多く来店している。
		一般レストラン (経営者)	・歓送迎会の需要が多く、特に大人数での利用が増えている。少し高めの予算を希望する客からは、会社からの経費が出るという声も多かった。花見シーズンでインバウンドの利用者も増え、繁華街、ビジネス街共に、来客数と単価が少し上向いている。
		都市型ホテル (管理担当)	・宿泊に関しては、引き続きインバウンドは好調に推移しているが、国内の個人客は低調であり不安が残る。ただし、全体的には一般宴会やレストランを含め、好調を維持しており、やや良くなっている。
		タクシー運転手	・インバウンド効果が続いている。
	変わらない	商店街 (代表者)	・インバウンド客でにぎわっているが、売上の増加につながらない。
		一般小売店 [精肉] (管理担当)	・外国人観光客に感わされがちであるが、景気が良くなっている実感は全くない。今月は春休みとゴールデンウィークに挟まれているため、消費が冷え込み、景気の判断が難しい状況が続いている。確かに一部の高額商品は動いているが、低価格商品の動きも活発である。
		百貨店 (売場主任)	・季節の変化に伴い、衣料品を中心に消費が活発化している。好調なインバウンドとの両輪で、景況感も良くなっている。
		百貨店 (営業担当)	・株安の影響を懸念したが、富裕層による高額品の購買は引き続き順調で、円高の影響が懸念されたインバウンドの動きも順調である。ただし、中間層によるボリュームゾーンの商品や食品の購入には、力強さがない。
		百貨店 (マネージャー)	・訪日外国人売上が前年比で80%増となり、店頭売上も5%増で推移している。ただし、訪日外国人売上を除くと、店頭売上は2%減と、国内消費は厳しい状況である。国内消費は、特選衣料品と宝飾品は引き続き好調に推移し、全体の客単価を押し上げているが、ここ数か月は回復基調にあった中間層の消費に低迷の兆しがみられる。
百貨店 (役員)		・百貨店業界はインバウンドの影響で売上好調といわれているが、大阪などの大都市が中心である。化粧品の伸びが大きいほか、株高の影響で、富裕層による時計などの高額商品の需要も増えている。結果として、衣料品の苦戦が続いているものの、都市部の百貨店は好調に推移している。一方、地方の店舗や郊外店にはインバウンドの恩恵がなく、中間所得層の可処分所得も増えないなかで、衣料品の苦戦が続いている。人材も採用難であり、人手不足で業績も悪化しているのが実情である。	
百貨店 (宣伝担当)		・今月もインバウンド売上は堅調である。国内の富裕層にも株安の影響は少なく、高額商品を含めて売上を維持できている。	
百貨店 (商品担当)		・気温の変動が大きいなど、季節の変化が不順であるため、衣料品の売行きが少し厳しい。化粧品や子供服は依然としてインバウンドに支えられ、順調に推移している。	
一般レストラン (企画)		・客単価が前年を大きく上回る状況が続いている。来客数もほぼ前年並みを維持しており、売上の前年比は好調に推移している。関東と比較して、前年比は関西がより高い水準を維持しているが、インバウンド効果の高さによるものである。	
都市型ホテル (スタッフ)		・宿泊は改装が終了し、通常の営業となっている。高単価での販売が続いているため、国内需要の取り込みが厳しく、インバウンドへの依存度が高まっている。一方、宴会は好調が続いている。ビールなどの値上げに伴い、飲料の販売価格を今月から約15%値上げしたが、おおむね受け入れられている。レストランも、インバウンドの朝食需要や、夜の企画によって客数が増えている。	
都市型ホテル (管理担当)		・アジアからのインバウンドの増加により、レストラン部門の朝食は伸びているが、夕食には力強さがない。	
なっている	やや悪くなる	百貨店 (売場主任)	・今月は目標を下回る見込みである。インバウンドの売上は好調であるが、国内客の売上の伸びが鈍化している。3月は春物商材の動きが良かったため、その反動もあるが、不要不急の購買に対する客の慎重さは、以前よりも強まっている。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 16												17				18								
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
現 状 判 断	近畿	41.6	42.4	40.0	45.9	46.1	45.5	47.1	51.7	53.6	50.3	49.7	48.7	48.4	50.4	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1
	(全国)	40.9	42.0	41.3	44.1	46.2	46.3	48.3	50.5	50.7	49.4	48.8	47.9	48.5	49.1	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0
先 行 き 判 断	近畿	46.2	46.5	40.8	47.4	49.0	49.6	48.6	50.4	49.9	49.8	50.3	49.0	49.7	51.2	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1
	(全国)	44.5	45.8	40.6	47.1	48.8	49.4	49.9	50.8	50.4	49.2	50.2	48.5	49.5	50.0	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1